

P+ARCHIVE レクチャー & ワークショップ 2011

# 実践 アート・アーカイビング

## 明日を構築するアート・アーカイビングとは？

# 参加者募集

<http://www.art-society.com/parchive/ws2011>

 ARCHIVE

実施期間 **2011**(平成23)年8月 - 2012年2月

会場 3331 Arts Chiyoda 東京文化発信プロジェクト ROOM 302

時間 午後7時～午後9時

募集人数 **30名程度** (先着順、但し全レクチャー・ワークショップに参加できる方優先)

参加対象者 アート・アーカイブに関心のある方、学生、NPO関係者、アーティスト、アート活動に関心のある方などたても参加できます！

主催 東京都  
東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)  
特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター

コーディネーター 特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター

参加費 一般3,000円、学生2,000円 (ワークショップ5回+資料代を含む)  
レクチャーは無料公開 (レクチャーのみの参加も可)

応募方法 P+ARCHIVEのホームページの応募フォームにご記入ください。  
<http://www.art-society.com/parchive/ws2011>

締切 **8月27日**

# 実践 アート・アーカイビング

アート活動の現場では、膨大な資料や書類が日々蓄積されていきます。これらは個人や団体の将来の活動を支える貴重な情報やノウハウ、経験の宝庫です。しかし、現在進行中の運営や製作の作業に追われ、それらを整理、保存する余力がないのが現実ではないでしょうか。

P+ARCHIVEは、これらの貴重な資料が散逸してしまいがちな現状に対して、その記録・保存を効率よくおこなうアーカイビングの方法を構築し、その実践にかかわる人びとと共有してゆくことが重要だと考えています。

そこで、「実践：アート・アーカイビング」は、アート・アーカイブへの理解を深めるためのレクチャーや、文書管理の基礎的なスキルを学ぶ連続ワークショップを通じて、アート・アーカイビングにかかわる実践的な人材育成を目指します。そのプロセスは各運営主体にとって、アーカイビングという一見複雑で煩雑な作業をシンプルに効率よく展開するひとつのガイドになるでしょう。また、その体験がネットワークされることによって、ひろく次世代のアート活動にとっても、価値ある資源を残し、新たな文化環境をつくり出すための創造的な作業となるでしょう。

## シラバス

レクチャー01

8/30  
(火)

### 「アートとアーカイブの実践」

講師：住友文彦氏（キュレーター）

P+ARCHIVEの実践と他の事例との比較検討 / 「日本美術オーラルヒストリーアーカイブ」の活動について

ワークショップ01

9/29  
(木)

### 「アート・アーカイブのアーカイビング」

ファシリテーター：筒井弥生氏（アート・ドキュメンテーション学会会員）

このワークショップの目標は、アート・アーカイブがどのようなものであるかを理解し、アート・プロジェクトの記録保存の方法を共に考えていくことにある。初回は、第1回レクチャーと参考文献をふまえ、アート・アーカイブ像を議論するとともに、各自がもつ資料の内容把握やそのアーカイビングのルールづくりなどを考えるためのツールを紹介する。

P+ARCHIVEの概略説明 / 文献・ウェブページの紹介 / 何のためにアーカイブするのか / バイタルレコードとは？

レクチャー02

10/13  
(木)

### 「文化資源のデジタル化とその情報記録の課題」

講師：研谷紀夫氏（東京大学大学院情報学環特任准教授）

「文化資源のデジタル化に関するハンドブック」に関する解説 / 文化資源のデジタル化に関する記録 / 今後の課題

ワークショップ02

11/9  
(水)

### 「記録を保存するということ」

ファシリテーター：筒井弥生氏（アート・ドキュメンテーション学会会員）

プロジェクトのそれぞれの段階で、意志決定のプロセスがわかるように記録を作成し、文書の保存期間を決めて、管理簿に記載してゆくという、記録作成の一連の作業を理解し、記録管理の意義や管理簿の必要性について考え、その具体的な方法を学ぼう。

「公文書等の管理に関する法律」の施行とその影響について / 記録の作成及び作成時の諸注意、記録の保存期間の設定、管理簿について / 電子記録の管理（デジタル化とポーン・デジタル）

ワークショップ03

12/7  
(水)

### 「資料整理と目録作成」

ファシリテーター：柴田葵氏（桜美林大学非常勤講師）

どんな貴重な資料であっても、生まれた時はまだ「アーカイブズ」ではない。時の流れの中で長期に渡って残されたものが、アーカイブズになるのだ。文書の一生＝ライフサイクルを理解し、今・ここにある資料を適切に管理する方法を実践しよう。

文書のライフサイクル論 / ファイリングの諸形態、分類の方法 / 目録の作成

ワークショップ04

1/19  
(木)

### 「アーカイブズの保存と防災」

ファシリテーター：柴田葵氏（桜美林大学非常勤講師）

資料を未来に、将来世代に向けて伝えていくため、より安全な形で長期間保存し、自然災害や事故などから守るための方策について考える。

記録媒体（メディア）の種類と特性 / 保存に適した環境整備（温度・湿度・光など） / 地震・水害・火災などの防災対策、リスク・マネジメント

ワークショップ05

2/15  
(水)

### 「アーカイブズの公開と法」

ゲスト：作田知樹氏

（Arts and Law 代表理事、東京大学大学院文化資源学研究室）

生貝直人氏

（クリエイティブ・コモンズ・ジャパン 理事、

東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター 特別研究員）

アーカイブズを一般公開するにあたっては、資料に含まれる個人情報や、著作権などの問題に留意する必要がある。アーカイブズの公開に深く関わる両制度について知り、知的資源の社会的共有化を目指す。

個人情報保護法 / 著作権とクリエイティブ・コモンズ

## レクチャー講師



住友文彦（すみともふみひこ） / 東京都現代美術館などに勤務し、昨年はメディアアンティソウル 2010（ソウル市美術館）の共同キュレーターをつとめる。「Possible Futures : アート&テクノロジー過去と未来」展（ICC / 東京 / 2005）、「川保正【通路】」（東京都現代美術館 / 東京 / 2008）、ヨコハマ国際映像祭 2009などを企画。おもな共著に、『キュレーターになる！』（フィルムアート社、2009年）などがある。



研谷紀夫（とぎやのりお） / 大学卒業後、情報関連会社勤務を経て、東京大学大学院情報学環特任准教授を経て現職。大学院時代より、文化資源の電子化などの研究に取り組む。著書に『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』他。

## 東京アートポイント計画

東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを旨とし、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。  
<http://www.bh-project.jp/artpoint>

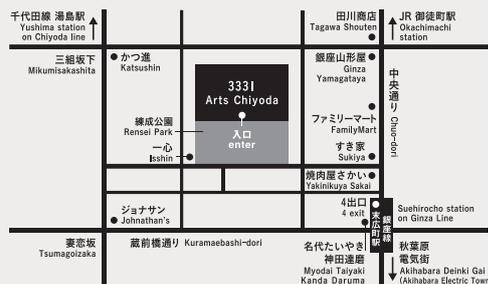
## 特定非営利活動法人 アート&ソサイエティ 研究センター

都市や地域における芸術文化活動並びにパブリックアートの情報発信及び調査研究・実施活動に関する事業を行い、都市や地域の文化的発展と市民の文化環境の向上に寄与することを目的として活動する非営利芸術団体。  
<http://www.art-society.com>

## P+ARCHIVE

「地域・社会に関わるアート」に関心のある市民や学生、研究者が情報収集をおこなうことができるアートアーカイブを構築・公開するとともに、アート・プロジェクトを記録・アーカイブ化する人材を育成することで、「地域・社会に関わるアート」のプラットフォームを創出することを目的とした活動である。本プロジェクトは「東京文化発信プロジェクト室」との共催事業として運営されている。  
<http://www.art-society.com/parchive/>

## 会場アクセス



東京文化発信プロジェクト ROOM302  
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-11-14, 3331Arts Chiyoda 302

【お問い合わせ】  
特定非営利活動法人アート&ソサイエティ 研究センター  
[info@art-society.com](mailto:info@art-society.com)  
<http://www.art-society.com/>